

令和7年度 病院事業の決算概要について

1 令和7年度決算の概要

外来患者数の増加、手術件数の増加や平均在院日数の短縮により患者一人当たりの診療単価が上昇した結果、前年度と比較して医業収益は増加し、過去最高となった。しかし、給与費や委託費に加え、電子カルテ等の固定資産の償却開始により減価償却費が増加したことから、病院事業収支は前年度からさらに赤字が拡大した。

(1) 患者数(病院事業庁全体)

	令和7年度		令和6年度		増減	
	患者数(人)	1日平均(人)	患者数(人)	1日平均(人)	人数(人)	比率(%)
入院	186,773	511.7	192,163	526.5	△ 5,390	97.2
外来	280,254	1,158.1	276,504	1,137.9	3,750	101.4

(2) 決算の状況(病院事業庁全体)

(税抜、単位:百万円)

収益的収支	令和7年度	令和6年度	増減
病院事業収益	26,814	26,113	701
医業収益	21,843	21,567	276
医業外収益	4,737	4,316	421
附帯事業収益	234	230	4
病院事業費用	29,172	28,013	1,159
医業費用	27,440	26,387	1,053
医業外費用	1,507	1,400	107
附帯事業費用	225	226	△ 1
当年度純損益	△ 2,358	△ 1,900	△ 458

一般会計繰入金	5,094	4,712	382
---------	-------	-------	-----

ア 医業収益は、前年度に比べて 276 百万円増加

診療単価の上昇等により診療収益は 199 百万円増加。

	入院単価 ()内は R6	外来単価 ()内は R6
総合	84,009 円 (83,016 円)	25,088 円 (24,012 円)
精神	28,653 円 (28,056 円)	7,707 円 (8,452 円)

平均在院日数(総合本館)は 0.6 日短縮。(R6:11.2 日 → R7:10.6 日(緩和ケア除く))

新入院患者数(総合本館)は 507 人増加。(R6:11,265 人 → R7:11,772 人)

イ 医業外収益は、前年度に比べて 421 百万円増加

一般会計繰入金が 308 百万円増加。(R6:3,685 百万円 → R7:3,993 百万円)

補助金が 242 百万円増加。(R6:51 百万円 → R7:293 百万円)

ウ 医業費用は、前年度に比べて 1,053 百万円増加

給与費の増加(+367 百万円)、物価高騰等に伴う委託費の増加(+333 百万円)、減価償却費の増加(+351 百万円)。

(3) 各病院の状況

(税抜、単位：百万円)

	総合病院		精神医療センター		経営管理課	
		対前年度		対前年度		対前年度
入院患者数(人)	155,782	△ 3,382	30,991	△ 2,008		
病床稼働率(%)	67.3	△ 1.4	69.0	△ 4.5		
外来患者数(人)	258,950	4,382	21,304	△ 632		
事業収益	24,710	701	1,998	4	211	8
医業収益	20,550	337	1,189	△ 57	206	8
うち入院収益	13,087	△ 126	888	△ 38		
うち外来収益	6,497	384	164	△ 21		
医業外収益	3,926	360	809	61	2	0
附帯事業収益	234	4			3	0
うち一般会計負担金	4,211	335	779	51	104	△ 4
事業費用	26,735	1,065	2,331	98	211	8
医業費用	25,063	959	2,273	99	206	7
給与費	11,964	255	1,581	109	185	3
材料費	6,620	48	77	△ 24		
うち薬品費	3,902	△ 145	68	△ 25		
うち診療材料費	2,700	195	8	1		
経費	4,279	322	400	5	21	5
光熱水費・燃料費	547	△ 18	60	△ 3	1	0
修繕費	254	△ 44	29	4	0	0
賃借料	360	17	19	2	2	0
委託費	2,216	324	238	4	9	6
その他	902	43	54	△ 2	9	△ 1
減価償却費等	2,029	330	188	5	0	0
研究研修費	91	△ 5	5	1	0	△ 1
医業外費用	1,447	108	58	△ 1	2	0
うち支払利息	210	22	2	0	0	0
附帯事業費用	225	△ 2			3	1
当年度純損益	△ 2,025	△ 364	△ 333	△ 94	0	0
当年度未処分利益剰余金 (△：未処理欠損金)	△ 19,623	△ 2,025	△ 1,112	△ 333	0	0

※減価償却費等には資産減耗費を含む。

※(2)の収益的収支全体の金額は、病院と経営管理課間の資金移動を重複控除しているため(3)を合計した額とは一致しない。

ア 総合病院

手術件数の増加や平均在院日数の短縮により患者一人当たりの入院単価が上昇したほか、紹介患者数の増加などにより外来収益が増加した。

一方で、給与費の増加や物価高騰に伴う委託費等の増加の影響により、赤字額が拡大した。

(ア) 病院経営改善の取組

- ・個室使用料や駐車場使用料等の料金を見直し、年間約 50 百万円の増収となった。
- ・薬品費および診療材料費について、ベンチマークやコンサルタントを活用した価格交渉を実施し、年間約 50 百万円のコスト削減を実現した。

- ・医療機器の保守管理の一部を年間保守契約から修繕発生時対応へと切り替えたことで、年間約 40 百万円のコスト削減を実現した。
- ・脳神経外科手術や放射線治療の実績等の要件を満たした結果、令和8年6月からの診療報酬改定により総合入院体制加算2に代わり急性期総合体制加算3での算定が可能となり、年間約 250 百万円の収益増が見込まれる。
- ・小児保健医療センターとの病院統合や平均在院日数の短縮等の取組により、令和8年6月から DPC 制度において大学病院本院群に準ずる高度な医療機能等を有するとされる特定病院群に位置づけられることで、年間約 70 百万円の収益増が見込まれる。

平均在院日数 本館 (R6)11.2 日 → (R7)10.6 日 (緩和ケア除く)

(イ) 高度・専門医療の提供

- ・局所麻酔用手術室の運用を令和7年5月から開始し、全身麻酔対応が可能な手術室を効率的に運用することで手術件数の増加を図った。
- 手術部手術件数 (R6)6,356 件 → (R7)6,837 件
- ・患者の呼吸等に伴う病巣の動きを自動的に追尾して治療する機能を備えた最新の放射線治療装置(OXRAY)による治療を開始した。
- ・TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)による治療を開始するなど、先進的な治療を提供した。
- 施行件数 (R6)1 件 → (R7)25 件
- ・RI内用療法(放射線を発する医薬品を使用して、がん細胞を体内から攻撃する治療法)として、特別措置病室を整備し、ルタテラ治療(対象疾患:神経内分泌腫瘍)を開始した。

県内診療病院数 2 病院(滋賀医大と当院のみ)

(ウ) 政策医療の取組

○救急医療の提供

- ・当直体制の見直しを行い、外傷等に係る救急患者の受け入れ体制を強化した。
- 救急搬送人数 (R6) 4,446 人 → (R7) 4,608 人
- 救急応需率 (R6) 95.7% → (R7) 98.0%
- 地域救急貢献率 (R6) 24.9% → (R7) 26.3%
- ・救急患者に対する経過観察のための入院を実施し、医療安全の向上を図った。

(エ) 地域医療連携の推進

- ・紹介患者の受け入れ体制を変更したほか、地域連携登録医との連携を丁寧に行うことで診療所等との関係を円滑化して紹介・逆紹介率の向上を図るとともに、紹介患者が円滑にMRI検査を受けられるよう運用を改善した。
- ・医師会が開催する研修会の講師に医師を派遣、あるいは医師が診療所を訪問して、当院の治療内容を含めた取組やスタッフを積極的に紹介し、紹介患者の増加を図った。

	R6	R7		R6	R7
紹介率※	85.8%	→ 86.2%	紹介患者数※	12,993 人	→ 13,241 人
逆紹介率※	90.4%	→ 96.0%	逆紹介患者数※	13,691 人	→ 14,740 人

※本館のみ

(オ) 小児医療に係る取組

- ・難治・慢性疾患の治療に継続して取り組むとともに、病院統合を生かした「子どもから大人まで切れ目ない医療」の提供体制構築に向けて、医療機能の強化を推進した。
- ・医療的ケアを必要とする患者の家族のレスパイトニーズに対応する医療型短期入所事業を令和8年4月から開始するため、利用者向けの説明会を開催するなど準備を進めた。
- ・かかりつけ患者への救急医療提供を強化するため、小児ドクターカーの運用開始に向けて準備を行った。

イ 精神医療センター

入院および外来患者数が減少したこと等により医業収益は減少した。また、給与費の増加、物価高騰による委託費の増加等により、赤字額が拡大した。

(ア) 精神科救急患者の受け入れ体制の強化

- ・精神科救急システムの円滑な運営のため、患者の状況を見極めながら病床の入替や病棟の移動などベッドコントロールに注力し、100%の受け入れ可能を目標に積極的な救急患者の受け入れに対応した。

救急患者受入用病床確保状況 (R6)74.5%(272/365 日) → (R7)98.4%(359/365 日)

搬送件数(救急車+警察車両での搬送) (R6)52人 → (R7)42人

(イ) 依存症治療等専門医療の推進

- ・アルコール・薬物、ギャンブル等の依存症に対し、依存症専門医療機関として専門診療や認知行動療法に基づく外来集団精神療法プログラム等を実施した。

ARP*¹入院患者数 (R6) 40 人 → (R7) 17人

SMARPP*²参加延べ人数 (R6)328 人 → (R7)355人

STEP-G*³参加延べ人数 (R6)237 人 → (R7)155人

*¹アルコール依存症の入院治療プログラム

*²アルコール・薬物依存症の外来集団治療プログラム

*³ギャンブル依存症の外来集団治療プログラム

- ・依存症治療拠点機関として、研修事業や普及啓発事業を実施したほか、保健所等への助言等の技術協力を行った。

(ウ) 思春期精神障害医療の推進

- ・中高生を対象に、こころの専門外来や入院による診療を行い、発達障害や摂食障害等の治療を行った。
- ・患者が地域で安定した生活を維持できるよう、学校や相談機関と連携しながら、円滑な受け入れと治療を行った。

こころの専門外来延べ患者数 (R6)1,676 人 → (R7)1,663人

児童・思春期精神障害に係る新規入院患者数 (R6) 37 人 → (R7) 55 人

思春期外来の学校・相談関係との連携割合 (R6) 66.4% → (R7) 90.9%

(エ) 病棟機能の再編と外来機能の強化

- ・令和8年2月から病棟では、病棟主治医制を導入し、病棟単位でチーム医療を展開した。あわせて、診療局長を外来専属とし、外来診察業務に集中できる環境を整えた。

(オ) 医師の確保

- ・数年後に複数のベテラン医師の退職を迎えることから、常勤医師の確保と育成は喫緊の課題であり、滋賀医科大学等との連携強化とともに、令和5年度の精神科専門医研修施設群基幹施設の認定を活かし、専攻医*の確保を図ったほか、医局秘書の新設など職場環境の改善を行った。
 - ・令和7年度中に正規職員の医師2名が育児休業を取得したほか、年度末には精神保健指定医1名が退職した一方、前年度に続いて2名の専攻医を確保できた。
- *専攻医：2年間の初期研修を修了した後、専門医の資格取得を目指して専門研修プログラムを受講している医師。会計年度任用職員として採用。

(4) 資本的収支の状況

ア 病院全体

(税込、単位：百万円)

資本的収支	令和7年度	令和6年度	増減
資本的収入	1,031	3,893	△ 2,862
企業債	958	3,835	△ 2,877
負担金	42	48	△ 6
補助金	30	10	20
諸収入	1	0	1
資本的支出	3,767	6,097	△ 2,330
建設改良費	1,035	3,943	△ 2,908
企業債償還金	2,732	2,154	578
当年度収支差	△ 2,736	△ 2,204	△ 532

一般会計繰入金	40	33	7
---------	----	----	---

※ 資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 2,736 百万円は、退職給付引当金に係る特定資金 2,615 百万円ならびに消費税および地方消費税資本的収支調整額 2 百万円で補填し、なお不足する額 119 百万円は企業債(経営改善推進事業)で措置。

【参考】資金残高

(税抜、単位：百万円)

	令和7年度	令和6年度	増減
資金残高	1,151	2,513	△ 1,362
損益勘定留保資金	0	0	0
退職給付引当金に係る特定資金	0	2,513	△ 2,513
病院事業債	1,151	0	1,151

資金不足比率
令和7年度
0.5%

- ※ 資金残高は、流動資産と流動負債(企業債を除く)の差額を示す。
- ※ 病院事業債(経営改善推進事業)*1,270,600 千円を借り入れ、年度末の資金を確保した。
 - *公立病院の資金繰りを支援し、経営改善を促進するために令和7年度に新設された地方債の制度。会計年度をまたぐ運転資金の調達が可能。
- ※ 公営企業の資金不足を事業収入(医業収益)の規模と比較して指標化した資金不足比率の算定に当たっては、病院事業債による調達資金は流動資産から除くため、資金不足比率が 0.5%となった。

イ 総合病院

(税込、単位:百万円)

資本的収支	令和7年度	令和6年度	増減
資本的収入	735	3,776	△ 3,041
企業債	672	3,719	△ 3,047
負担金	34	47	△ 13
補助金	28	10	18
諸収入	1	0	1
資本的支出	3,371	5,898	△ 2,527
建設改良費	733	3,826	△ 3,093
企業債償還金	2,638	2,072	566
当年度収支差	△ 2,636	△ 2,122	△ 514

○主な建設改良事業

本館 A 棟外壁改修工事 102 百万円、本館昇降機改修整備業務 88 百万円、
手術室器具除染用洗浄機 87 百万円

ウ 精神医療センター

(税込、単位:百万円)

資本的収支	令和7年度	令和6年度	増減
資本的収入	296	117	179
企業債	286	116	170
負担金	8	1	7
補助金	2	0	2
資本的支出	396	199	197
建設改良費	302	117	185
企業債償還金	94	82	12
当年度収支差	△ 100	△ 82	△ 18

○主な建設改良事業

外壁改修その他工事・監理委託 260百万円、昇降機改修 21百万円

(5) 比較貸借対照表

ア 病院全体

(税抜、単位:百万円)

科目	令和7年度	令和6年度	増減	科目	令和7年度	令和6年度	増減
固定資産	31,941	33,320	△ 1,379	固定負債	26,664	26,921	△ 257
有形固定資産	30,699	31,972	△ 1,273	企業債	21,625	22,110	△ 485
土地	6,181	6,181	0	リース債務	0	0	0
建物	45,515	45,088	427	退職給付引当金	5,039	4,811	228
減価償却累計額	△ 29,044	△ 28,047	△ 997	流動負債	6,442	7,625	△ 1,183
構築物	1,328	1,328	0	企業債	2,755	2,773	△ 18
減価償却累計額	△ 1,016	△ 999	△ 17	リース債務	0	0	0
車両運搬具	11	11	0	未払金	2,673	3,882	△ 1,209
減価償却累計額	△ 10	△ 9	△ 1	前受金	3	2	1
工具器具・備品	15,678	15,525	153	賞与引当金	764	720	44
減価償却累計額	△ 10,081	△ 9,269	△ 812	法定福利費引当金	137	144	△ 7
リース資産	236	236	0	預り金	110	104	6
減価償却累計額	△ 212	△ 177	△ 35	病院間貸借	0	0	0
建設仮勘定	2,113	2,104	9	繰延収益	1,836	1,946	△ 110
無形固定資産	3	3	0	長期前受金	4,940	4,931	9
投資	1,239	1,345	△ 106	収益化累計額	△ 3,117	△ 2,991	△ 126
出資金	5	5	0	建設仮勘定長期前受金	13	6	7
長期前払消費税	1,234	1,340	△ 106	負債合計	34,942	36,492	△ 1,550
流動資産	4,838	7,368	△ 2,530	資本金(固有資本金)	16,415	16,415	0
現金預金	785	2,808	△ 2,023	剰余金	△ 14,578	△ 12,219	△ 2,359
未収金	3,938	4,421	△ 483	資本剰余金	6,157	6,158	△ 1
貸倒引当金	△ 30	△ 31	1	受贈財産評価額	6,114	6,114	0
貯蔵品	145	170	△ 25	寄附金	43	44	△ 1
前払金	0	0	0	当年度未処分利益剰余金	△ 20,735	△ 18,377	△ 2,358
その他流動資産	0	0	0	(△:未処理欠損金)			
病院間貸借	0	0	0	資本合計	1,837	4,196	△ 2,359
資産合計	36,779	40,688	△ 3,909	負債資本合計	36,779	40,688	△ 3,909

イ 総合病院

(税抜、単位:百万円)

科目	令和7年度	令和6年度	増減	科目	令和7年度	令和6年度	増減
固定資産	28,745	28,678	67	固定負債	25,435	25,851	△ 416
有形固定資産	27,587	27,397	190	企業債	21,110	21,755	△ 645
土地	5,170	3,619	1,551	リース債務	0	0	0
建物	40,177	39,994	183	退職給付引当金	4,325	4,096	229
減価償却累計額	△ 25,346	△ 24,461	△ 885	流動負債	7,054	7,160	△ 106
構築物	871	871	0	企業債	2,629	2,680	△ 51
減価償却累計額	△ 654	△ 643	△ 11	リース債務	0	0	0
車両運搬具	9	9	0	未払金	2,371	3,635	△ 1,264
減価償却累計額	△ 8	△ 7	△ 1	前受金	3	2	1
工具器具・備品	14,833	14,706	127	賞与引当金	664	624	40
減価償却累計額	△ 9,602	△ 8,851	△ 751	法定福利費引当金	118	126	△ 8
リース資産	236	236	0	預り金	99	93	6
減価償却累計額	△ 212	△ 177	△ 35	病院間貸借	1,170	0	1,170
建設仮勘定	2,113	2,101	12	繰延収益	1,081	1,140	△ 59
無形固定資産	3	3	0	長期前受金	3,228	3,229	△ 1
投資	1,155	1,278	△ 123	収益化累計額	△ 2,160	△ 2,095	△ 65
出資金	4	4	0	建設仮勘定長期前受金	13	6	7
長期前払消費税	1,151	1,274	△ 123	負債合計	33,570	34,151	△ 581
流動資産	4,272	5,395	△ 1,123	資本金(固有資本金)	13,925	13,925	0
現金預金	424	1,043	△ 619	剰余金	△ 14,478	△ 14,003	△ 475
未収金	3,734	4,219	△ 485	資本剰余金	5,145	3,595	1,550
貸倒引当金	△ 26	△ 29	3	受贈財産評価額	5,102	3,551	1,551
貯蔵品	140	162	△ 22	寄附金	43	44	△ 1
前払金	0	0	0	当年度未処分利益剰余金	△ 19,623	△ 17,598	△ 2,025
その他流動資産	0	0	0	(△:未処理欠損金)			
病院間貸借	0	0	0	資本合計	△ 553	△ 78	△ 475
資産合計	33,017	34,073	△ 1,056	負債資本合計	33,017	34,073	△ 1,056

ウ 精神医療センター

(税抜、単位：百万円)

科目	令和7年度	令和6年度	増減	科目	令和7年度	令和6年度	増減
固定資産	3,196	3,091	105	固定負債	1,170	1,014	156
有形固定資産	3,112	3,024	88	企業債	515	355	160
土地	1,011	1,011	0	リース債務	0	0	0
建物	5,338	5,094	244	退職給付引当金	655	659	△ 4
減価償却累計額	△ 3,698	△ 3,586	△ 112	流動負債	530	446	84
構築物	457	457	0	企業債	126	93	33
減価償却累計額	△ 362	△ 356	△ 6	リース債務	0	0	0
車両運搬具	2	2	0	未払金	284	241	43
減価償却累計額	△ 2	△ 2	0	前受金	0	0	0
工具器具・備品	845	819	26	賞与引当金	93	86	7
減価償却累計額	△ 479	△ 418	△ 61	法定福利費引当金	18	16	2
リース資産	0	0	0	預り金	9	10	△ 1
減価償却累計額	0	0	0	病院間貸借	0	0	0
建設仮勘定	0	3	△ 3	繰延収益	755	806	△ 51
無形固定資産	0	0	0	長期前受金	1,712	1,702	10
投資	84	67	17	収益化累計額	△ 957	△ 896	△ 61
出資金	1	1	0	建設仮勘定長期前受金	0	0	0
長期前払消費税	83	66	17	負債合計	2,455	2,266	189
流動資産	1,649	1,898	△ 249	資本金(固有資本金)	2,490	2,490	0
現金預金	345	1,076	△ 731	剰余金	△ 100	233	△ 333
未収金	203	216	△ 13	資本剰余金	1,012	1,012	0
貸倒引当金	△ 4	△ 2	△ 2	受贈財産評価額	1,012	1,012	0
貯蔵品	5	8	△ 3	寄附金	0	0	0
前払金	0	0	0	当年度未処分利益剰余金	△ 1,112	△ 779	△ 333
その他流動資産	0	600	△ 600	(△：未処理欠損金)			
病院間貸借	1,100	0	1,100	資本合計	2,390	2,723	△ 333
資産合計	4,845	4,989	△ 144	負債資本合計	4,845	4,989	△ 144

エ 経営管理課

(税抜、単位：百万円)

科目	令和7年度	令和6年度	増減	科目	令和7年度	令和6年度	増減
固定資産	0	1,551	△ 1,551	固定負債	59	56	3
有形固定資産	0	1,551	△ 1,551	企業債	0	0	0
土地	0	1,551	△ 1,551	リース債務	0	0	0
建物	0	0	0	退職給付引当金	59	56	3
減価償却累計額	0	0	0	流動負債	36	635	△ 599
構築物	0	0	0	企業債	0	0	0
減価償却累計額	0	0	0	リース債務	0	0	0
車両運搬具	0	0	0	未払金	25	6	19
減価償却累計額	0	0	0	前受金	0	0	0
工具器具・備品	0	0	0	賞与引当金	7	10	△ 3
減価償却累計額	0	0	0	法定福利費引当金	1	2	△ 1
リース資産	0	0	0	預り金	3	617	△ 614
減価償却累計額	0	0	0	病院間貸借	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0	繰延収益	0	0	0
無形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
投資	0	0	0	収益化累計額	0	0	0
出資金	0	0	0	建設仮勘定長期前受金	0	0	0
長期前払消費税	0	0	0	負債合計	95	691	△ 596
流動資産	95	691	△ 596	資本金(固有資本金)	0	0	0
現金預金	16	689	△ 673	剰余金	0	1,551	△ 1,551
未収金	9	2	7	資本剰余金	0	1,551	△ 1,551
貸倒引当金	0	0	0	受贈財産評価額	0	1,551	△ 1,551
貯蔵品	0	0	0	寄附金	0	0	0
前払金	0	0	0	当年度未処分利益剰余金	0	0	0
その他流動資産	0	0	0	(△：未処理欠損金)			
病院間貸借	70	0	70	資本合計	0	1,551	△ 1,551
資産合計	95	2,242	△ 2,147	負債資本合計	95	2,242	△ 2,147